

中心市街地の活性化に関する目標（数値目標）

中心市街地の活性化に関する目標

富山市中心市街地の活性化は、「まちなか居住の推進」「賑わい拠点の創出」「公共交通の利便性の向上」を3本柱として進める。

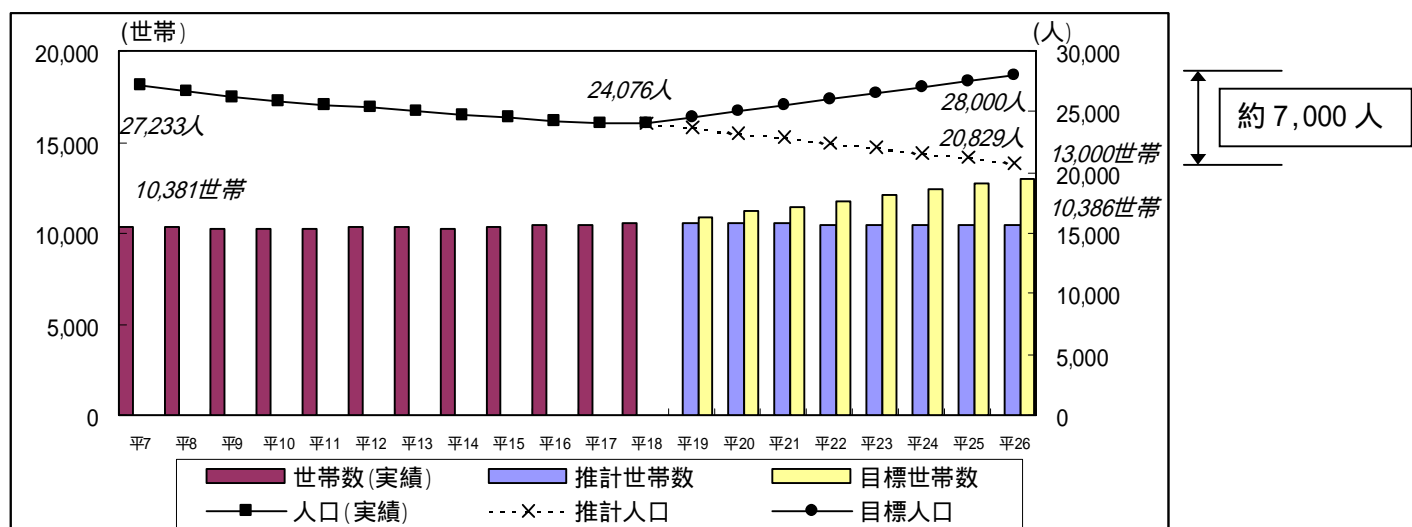
以下に、それぞれの目標について、その達成状況を的確に把握できる数値目標を設定する。

「まちなか居住の推進」に関する数値目標

平成17年3月に策定した「富山市まちなか居住推進計画」において、平成26年における中心市街地内の居住人口の目標を28,000人と設定している。

これは、平成12年時点の全国の人口集中地区（D I D地区）の平均的な密度65人/haを目指す数値であり、充実したコミュニティの形成に適した市街地密度であることから、設定時の人口減少傾向に基づき予測した平成26年の人口20,829人と比較すると、約7,000人の人口増を目指すこととする。

また、世帯数については、設定時（平成16年）の世帯あたり人員2.3人/世帯に基づき、3,000世帯（7,000人÷2.3人/世帯 3,000世帯）と設定している。



（資料：富山市まちなか居住推進計画をもとに、平成17、18年の実績を加筆）

平成17年度から取り組んでいる富山市まちなか居住推進事業においては、質の高いまちなか住宅、優良賃貸住宅の建設促進、業務・商業ビル等から住宅への転用促進、住宅に併設する店舗等の整備促進に努めている。また、良質なまちなか住宅取得の支援や、賃貸住宅の家賃助成、まちなか居住の普及活動などによる、まちなか居住の促進にも取り組み、開始から1年あまりであわせて96戸に係る支援実績がある。なお、堤町通り一丁目地区優良建築物等整備事業においては、平成19年1月完成予定で96戸の住宅が整備される予定である。

中心市街地の区域内では、この他にも再開発事業の立上げが検討されており、これらの住宅供給の促進等により、「まちなか居住の推進」を実現するものとする。

なお、こうした事業の取り組みの効果もあってか、近年減少傾向が続いていた中心市街地人口が平成18年4月時点で増加に転じている。

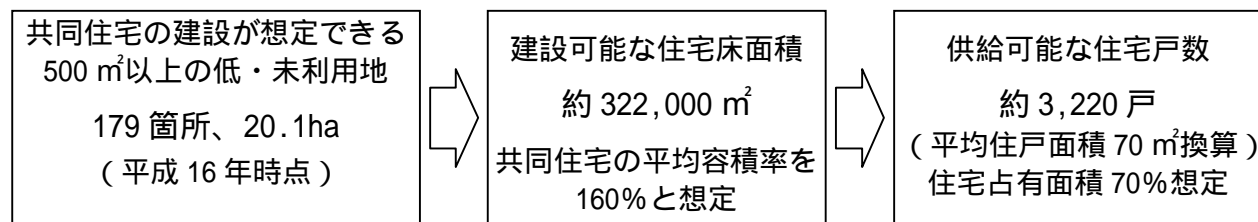
以上から、まちなか居住の推進に関する指標を以下のとおり設定する。

まちなか居住の推進に関する指標

指標（単位）	考え方・設定根拠	現況数値	目標数値	備考（出典）
まちなか居住者数（人）	中心市街地の活性化には、この区域に居住者が増えることが重要であることから、まちなか居住者数を目標指標とする。 目標数値は、富山市まちなか居住推進事業で設定した数値（平成16年からの10年間で約7千人の人口回復を目指す）とする。	24,076人 (H18.4)	28,000人 (H26) 約1.2倍	住民基本台帳人口 富山市まちなか居住推進事業の目標値

目標達成に必要な事業等の考え方

「富山市まちなか居住推進計画」において、施策による住宅供給量の目標を3,000戸とし、その実現可能性を以下のとおり整理している。



「賑わい拠点の創出」に関する数値目標

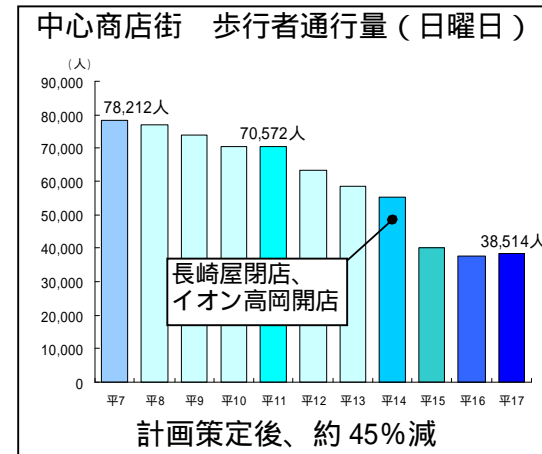
今回の基本計画においては、総曲輪通り、中央通り、西町の三商店街のある中心商店街において、百貨店が出店する総曲輪通り南地区市街地再開発事業、全天候型のイベントスペースとしてのグランドプラザ整備事業、空き店舗を活用した市民の文化・教養・娯楽の拠点としての(仮称)賑わい交流館整備事業、「浮城」をキーワードとした富山城址公園整備事業等による賑わい拠点の創出を図ることとしている。

これらの事業による中心市街地活性化の目標達成を把握する指標として、中心商店街の歩行者通行量(休日)を設定する。

数値目標設定の考え方

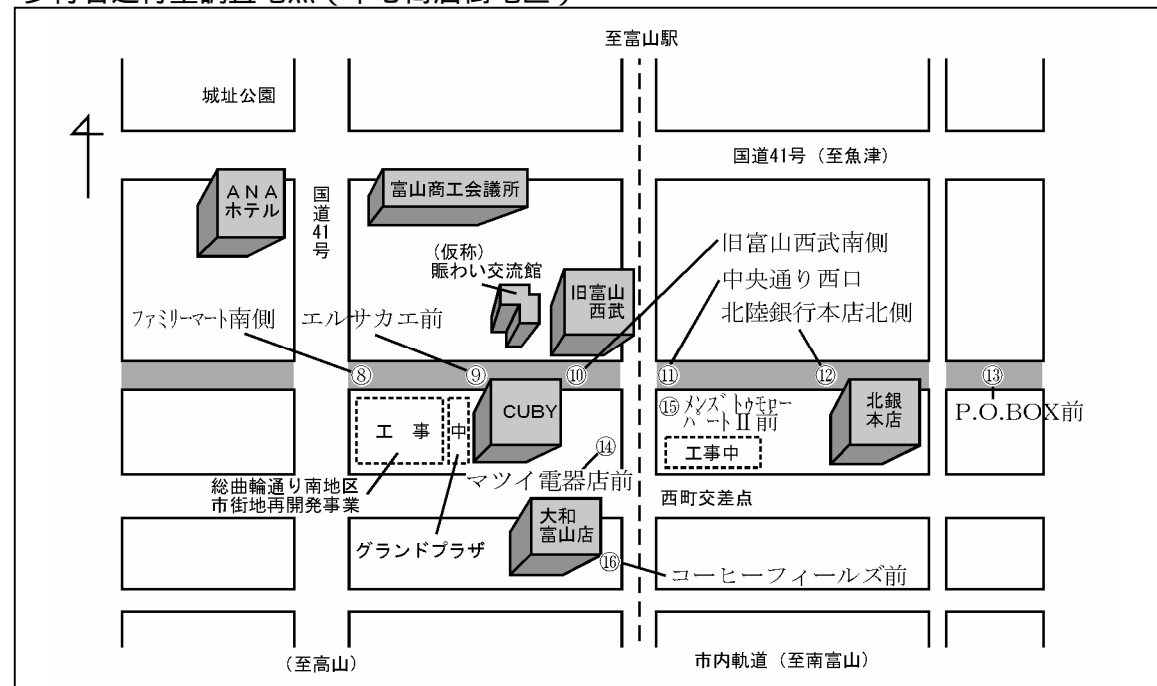
中心商店街の歩行者通行量(日曜日)は、近年減少を続けており、平成11年の現行基本計画策定後も約45%減少している。

今回の基本計画においては、中心商店街において賑わい拠点の創出を図る様々な事業を予定しており、それぞれの事業の集客見込みから、平成26年に目標とする歩行者通行量(日曜日)を検討する。



(資料:歩行者通行量調査結果)

歩行者通行量調査地点(中心商店街地区)



エルサカエ前については、平成17年からの調査地点のため、合計に加えていない

歩行者通行量(日曜日・平成17年8月21日)実績(中心商店街地区)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
平17	4,373	9,069	6,971	6,841	4,668	3,780	1,684	1,128		38,514

(資料:平成17年度歩行者通行量結果(富山市・富山商工会議所調査))

1) 総曲輪通り南地区市街地再開発事業による集客増

総曲輪通り南地区市街地再開発事業においては、平成19年秋に31,600㎡の面積を持つ百貨店の開店が予定されている。

総曲輪通り南地区市街地再開発事業に関わる想定日來客数 = 1,100 (店舗面積当たり日來客数原単位) × 31.6 (店舗面積) = 34,760 人 (新規店舗) = 1,100 (店舗面積当たり日來客数原単位) × 15.5 (店舗面積) = 17,050 人 (既存店舗) 店舗面積当たり日來客数原単位: 1,100 (行政人口40万人以上、商業地区、店舗面積S > 20 (千㎡)の場合) 出典: 大規模小売店舗を設置する者が配慮すべき事項に関する指針(経済産業省)

大規模小売店舗立地法の届出に基づくと、新規店舗の想定日來客数は約35,000人/日、既存店舗からの想定日來客数の増加は約18,000人/日と見込まれる。

以上から、歩行者通行量の増加に寄与する想定日來客数は、約18,000人/日増と想定する。

既存店舗と新規店舗の比較

	既存店舗	新規店舗	既存、新規の比較
面積	15,480 ㎡	31,600 ㎡	約2.0倍
売上高	153 億円 (平成18年2月期)	200 億円 (初年度売上目標)	約1.3倍

資料:大和ホームページ

2) グランドプラザの集客

総曲輪通り南地区市街地再開発事業とCUBYの間に、全天候型広場「グランドプラザ」の整備を進めており、平成19年秋にオープン予定である。大型映像施設、200席程度のイベントスペースが整備される予定であり、年間100日程度(毎週土日)イベントを開催することが検討されている。

グランドプラザにおける休日の想定来客数 = 90 人 (施設内に常に10人が休憩等で滞留 × 9時間) + 200 人 (イベント集客) = 290 人 滞留する時間は、現在の富山大和店の営業時間(10時~19時)に限定して想定
--

以上から、休日の利用者数を約290人/日と想定(年間休日利用者数約29,000人)する。

3) (仮称)賑わい交流館の集客

昨年、寄贈を受けた元映画館の建物(総曲輪WIZ)を活用し、市民の文化・教養・娯楽の拠点となる市民映画館及び演劇や落語の上演用の小規模ホールへの整備を行う。平日50人程度、土日は200人程度で年間30,000人の入場者を目指す。

以上から、休日の利用者数を約200人と想定する。

「公共交通の利便性の向上」に関する数値目標

「公共交通の利便性の向上」に関する数値目標については、現在検討中です。

4) 施設の集約等による歩行者通行量の増加

以上の施設が総曲輪通りに集約して整備されることや、平和通りでの魅力的な歩行空間の整備や路面電車環状線化の事業に取り組むことで、商店街を散策する人が増加すると考えられる。現況歩行者通行量より5%増加すると仮定すると、その増分は約2,000人と想定される。

5) 各施設の集客に基づく歩行者増の見込み

以上のとおり、歩行者通行量の増加に寄与する施設利用者の増加、施設の集約等による歩行者通行量の増加を想定することで、歩行者通行量(日曜日)の増分は約7,500人と想定される。

中心商店街における歩行者増の見込みまとめ

	新規施設の整備からみた増分			施設の集約等からみた増分
	総曲輪通り南地区市街地再開発事業	グランドプラザ	(仮称)賑わい交流館	
来客数の見込み	18,000人/日増	約290人/日	約200人/日	現況歩行者通行量 38,514人
歩行者増の見込み	(来客数の30%) 約5,400人/日	(来客数の30%) 約90人/日	(来客数の30%) 約60人/日	5% 約2,000人
計	約5,550人			
合計	約7,500人			

平成17年度中心市街地商業等活性化支援業務「市町村の中心市街地活性化の取組に対する診断・助言事業」で実施した「まちかどアンケート調査」では、土休日の中心市街地来街者のうち徒歩または自転車の利用割合は計26%であることから、歩行者通行量に寄与する来街者の割合を30%と想定する

目標達成に必要な事業等の考え方

目標達成に向けては、設定の根拠とした総曲輪通り南地区市街地再開発事業、グランドプラザ整備事業、(仮称)賑わい交流館整備事業を予定どおり完成させ、また、関連して平和通り等整備事業により歩行者空間の魅力を高めることや、路面電車環状線化事業によりアクセス性を高めることで、中心商店街全体で歩行者通行量を増やすことを進めていく。

なお、中心商店街の駐車場を終日無料にする「街なか感謝デー」の取組みでは、歩行者通行量は前週比の約1.5~2.2倍に増えていることから、現状の約1.2倍の歩行者通行量を目指す目標は、実現不可能な数値ではないものとする。

以上から、賑わい拠点の創出に関する指標を以下のとおり設定する。

賑わい拠点の創出に関する指標

指標(単位)	考え方・設定根拠	現況数値	目標数値	備考(出典)
中心商店街の歩行者通行量(日曜日)(人)	人が歩いていることが、まちの賑わいを演出していると考え、中心商店街の歩行者通行量を目標指標とする。 目標数値は、中心商店街での新たな整備による来客増を踏まえた設定数値とする。	38,514人 (H17)	46,000人 (H26) 約1.2倍	歩行者通行量調査